

## NPO 自立支援センター ふるさとの会

2008.04.25  
【第4号】



これはHTML形式  
のMAILです。  
オンラインで無い場合  
は画像が表示され  
ない可能性があります。

[HOMEPAGE](#)

[SCHEDULE](#)

[EVENTs](#)

※ふるさとの会のメールマガジンをご愛読いただき、誠にありがとうございます。  
今後もふるさとの会の活動内容を定期的に情報発信させていただきたいと存じます。  
ご不要の場合はお手数ですがご返信くださいますようお願いいたします。

### INDEX

- ① 新連載 ふるさとサポーターズに聞く その1 内藤純会計士
- ② 生活再建・相談センター開所レポート
- ③ 宿泊所・自立援助ホーム事業部&地域生活支援センター お花見
- ④ 東京外語大学非常勤講師就任のご報告
- ⑤ 地域生活支援センターすみだ ボーリング大会
- ⑥ 国際シンポジウム『社会的経済と地域再生にむけた基盤づくり』参加報告
- ⑦ 今月のボランティア

## ① 新連載 ふるさとサポーターズに聞く その1 内藤純会計士

新年度を迎え、ふるさとの会メールマガジンでも新しい連載が始まります。NPO法人をはじめ、ふるさとの会グループ法人では、様々な分野の方々のお力添えをいただき、事業を展開してまいりました。この連載では、その中の一部の方にお話を伺い、ご紹介していこうと思っております。第1回目は、顧問会計士として、NPO法人、有限会社ひまわり、株式会社ふるさとの会を見ていただいている、内藤純氏にご登場願います。

—まず、ふるさとの会と関わることになったきっかけは？

10年前位から、東京ボランティア・市民活動センター(飯田橋)主催のNPO会計個別相談の相談員をしており、また、同センターでNPOマネジメント研修が始まった7年前より経理と税務の講師を担当しているのですが、ここにNPO法人になりたてのふるさとの会の職員が相談にみえて、決算時のお手伝いをするようになり、平成17年度より顧問税理士(公認会計士)になりました。

—ふるさとの会の印象は？

まず、規模が他のNPOに比べて大きいという印象を持ちました。公益法人でもないかぎり、多くの非営利法人が年間1000万円以下の収支であるのに比べ、桁が違うことに驚くとともに、たのもしくうれしく感じました。

私は会計士として多くの企業ともお付き合いがありますが、平成7~8年頃のバブル崩壊後、一般企業の40~50歳台の元気度が少なくなっていたのと比べ、ボランティアやNPO活動をしている同じ年代の方々には元気があり、生き生きして楽しそうだなと思っていました。また、ふるさとの会でもそうですが、様々な経歴の人材が集まって真剣にこれからの社会のことを考え行動していることにもおもしろさを感じました。

—ふるさとの会の最近の事業展開に関して不安は感じられませんか？

確かに、NPO法人の他、有限会社ひまわり(ヘルパーステーションふるさと)、株式会社ふるさとと短い期間に次々に新しい法人を立ち上げていますが、一般的に言っても成長過程にある組織は、必要に応じて増殖していくものであると思います。この3法人はまったく関係なく存在しているのではなく、有機的につながり延長線上では大きな目的を一緒にしているものと捉えています。

また、もし財政的に問題を感じたら、助言することが顧問会計士としての義務であると考えています。

—今後のふるさとの会への期待と注文をお聞かせ願えますか？

大体において、楽観視しています。というのは、世代交代というかスタッフが若いこと。これは失敗しても守りに入るのではなく、這い上がる力を感じるからです。また、組織が硬直化していないこと、職員が礼儀正しいということも、これからもふるさとの会が良い仕事を続けていくためにはよい要素と考えています。

今後、業務フローチャートの文書化やダブルチェックの体制など、内部統制の充実を図り、失敗を成功につなげていく工夫が必要だと考えます。

ふるさとの会には幅広い人脈という大変得がたい財産があると思います。それを活かし、社会的信用を得る仕事を展開していくことを望みます。

恩師から授業で聞かれた『全ての組織は2枚の書類であらわすことが出来る。それは、貸借対照表と損益計算書の2つである』という言葉引用し、その組織のストーリーを数字から読み解くおもしろさを語りつつ、『会計士という仕事は、上場企業であっても会計士が監査でOKを出さなければ上場廃止になるというほど、責任重大な仕事です。事業

概要など文章で表されているものはあいまいですが、数字は具体的にその事業や組織をイメージできます』と真摯な姿勢を示してくださいました内藤会計士でした。  
(ウラベノリコ)



内藤 純 公認会計士・税理士 プロフィール

昭和43年山梨県甲府市に生まれ。平成10年公認会計士試験第3次試験合格(公認会計士)、平成12年税理士登録(東京税理士会)。専門学校講師として教鞭をとられているほか、会計監査、研修会講師(会計・税務)、株式公開準備、税務代理、中小企業再建計画作成等、幅広く活動しておられる。特に非営利法人会計(財団・社団・NPO・学校法人)に詳しく東京ボランティア・市民活動センターでの個別相談でも人気の講師の1人。

## ②「彼らを地域社会へといざなう架け橋に」生活再建・相談センター開所式レポート

桜の花が早々と咲きほこり始め、新たなる出発の息吹を感じさせる春を目前にし、多くの方々に期待され待ちわびていただいた開所式を、3月29日(土)にふるさとの会本部ビルにて開催し「生活再建・相談センター」が新団体として誕生しました。

開所式には、相談業務開始にあたり共に協議を進めてきた法務省保護局の方々や東京保護観察所の方を初めとして保護司、更生保護施設、福祉関連組織、各福祉関係大学の方々にご出席いただき、遠くは大阪からもいらしていただきました。また、昨年10月に施設見学をさせていただき貴重なご意見を聞く事のできた、社会復帰促進センターを手がけている大林組の方々にも出席いただきました。予想を上回る多くの出席者の方々のこのセンターにかける期待を重く受け止め、同時にスタートの喜びを共感することのできた開所式の始まりでした。

第一部では、「獄窓記」(第3回新潮ドキュメント賞受賞)「累犯障害者」「続獄窓記」などを著作として出され、播磨大林・ALSOKグループのアドバイザーで、本相談事業への相談にもものついでいただいている、山本譲司氏に「触法障害者をめぐる諸課題について」というテーマで記念講演をいただきました。

第二部の開所式では、冒頭に相談センターを代表して細木博雄氏(社団法人生活福祉研究機構)の事業説明が行われました。本センターでは、受刑者の方や仮釈放中・満期出所者の方の生活の支援を目的とし、刑務所や保護観察所連携し、刑期中の方の身元引受人となり必要な支援を検討したり、満期出所の方々には住居の確保、就労の支援、介護施設などの紹介の相談実務を行い、ふるさとの会をはじめとさまざまな社会的資源を活用したセーフティネットを構築していきたいとの力強いお話がありました。

そして、それぞれの出席者一人一人の思いがひとつになる中、山岡義典氏(法政大学現代福祉学部教授)による乾杯が行われ、さらなる決意を固める開所式になりました。

その後の懇談会では、ほとんどの出席者の方が参加され、新しい出会いの場となり、穏やかな表情で歓談する会話の切れることのない会となりました。

(山形 章)



## ③ 宿泊所・自立援助ホーム事業部&地域生活支援センター お花見

晴天にも恵まれ、まさしくお花見日和となった4月4日。山谷堀公園にて宿泊所・自立支援センター・給食センター事業部のお花見会を開催しました。

宿泊所の利用者、ボランティア、職員あわせて約75名が参加。

当日は花見御膳に舌鼓をうち、桜吹雪を手でキャッチしたりして楽しまれておられる方も多く、特にカラオケ会では、敬老室の特別行事や宿泊所でのカラオケ教室でおなじみの美咲加代子先生を交え、参加者の中には前々から練習をされるなど気合いを入れて参加される方もおられ、とても盛り上がりました。

地域生活支援事業部でも、移行支援事業でアパートに入居した方々に、春の息吹を肌感じてもらい、他の利用者さんや職員との交流を深めていただく為に、4月6日山谷堀公園にてお花見会を開催。この日も晴天に恵まれ34名の方が参加されました。

幕の内弁当と多少のビールと桜にほろ酔い気分になり、前日同様に三咲先生を招いてのカラオケ大会はおおいに盛り上がりしました。

今回のお花見はなごやかに無事終了をむかえられ、桜舞い散る中で、利用者さん方のキラキラ輝く桜に負けないぐらい素晴らしい笑顔もみられ、とても良かったと思います。

ふるさとの会では、今後もこのようなイベントを定期的におこない、利用者さん方の生活の質の向上や地域生活安定へ繋がるきっかけにしていきたいと考えております。

(松崎弘明)



#### ④ 東京外語大学非常勤講師就任のご報告

この度ふるさとの会職員の滝脇憲が、東京外語大学で非常勤講師として、社会学の講座を担当することになりました。宿泊所・自立援助ホーム・給食センター事業部責任者としての経験を交え、『居住の社会学、および非営利活動論』というテーマで講義を週一回行います。

##### 【授業の目標】

居住は食糧と並んで人間にとって最も基礎的なニーズであるが、現代社会においてその充足は多様かつ複雑な事象とともに困難になっている。この事象を一つ一つ検証しながら、誰もが安定した住居と安全な生活を享受するための方法論を、非営利活動の実践をとおして考察することが授業の目標である。

##### 【授業の概要】

さまざまな「居住弱者」が生み出される社会構造を概観しつつ、居住・生活再建と地域再生の方法論を考察する。課外に山谷地域の非営利活動をフィールドワークする予定である(一回の任意参加)。

##### 【講義計画】

第1回: 下層社会の歴史と現代の居住弱者

第2回: 新しい貧困—労働、家族、居住

第3回: 「社会的入院」—医療現場にみる貧困

第4回: 触法障害者と高齢受刑者

第5回: グループワーク

第6回: 東京の二極化と公営住宅の現在

第7回: 居住の脆弱性と災害

第8回: グループワーク

第9回: 英米のホームレス支援事業

第10回: コミュニティ再生と非営利金融

第11回: 地域社会の差別と民俗

第12回: 居住と共生の哲学—多重セーフティネットの可能性

第13回: グループワーク

第14回: 総括

第15回: 予備日

#### ⑤ 地域生活支援センターすみだ ボーリング大会

3月23日、地域生活支援センターすみだ主催によるボーリング大会を行いました。“ボーリングは10年ぶり!”、“こんな初めてだよ!”と様々な方々が曳舟ボーリングに集まりました。

三年間にわたる「ホームレス地域生活移行支援事業」が終了し、約400名の利用者を抱えるふるさとの会センターすみだは、生活サポート団体として利用者の方々の『地域での安心・安定した生活』、そして『一人一人のニーズに合った自立支援』を目指し、多岐にわたる支援を今後展開して行きます。サポート団体としての正念場はこれからであり、その為、新体制・新システムを組み職員一同心を新たにしています。

さて今回のイベントでは、移行支援事業利用者の方々への参加呼びかけが初めてのこともあり参加者総数12名の内、移行支援事業利用者は3名。やはり多くの方々はイベントが初めての事であることもさておき、就職活動に忙しい日々ようです。

ともあれ、プレイ! その殆どの方がボーリングは久しぶりとの事で少々ごちないスタートです。しかし直、はじけるピンの音と共にはじける笑顔、ガーターを出してちょっと恥ずかしげな笑顔、と誰もがリラックス、そして興奮! 一挙に盛り上がりの雰囲気にも包まれました。参加者の中には高齢の方も多く腕痛めないかなあ、などと外野席からいらぬ心配などしてしまいましたが、無用なことでした。

今回のイベントの担当者であるセンターすみだの館野職員のコメントをもらいました。「予想外の出来事があり、反省点は多かったのですが、次回以降に改善していければと思う。くじ引きでペアを作り、6チームで優勝を争った。大会としては大変盛り上がり、笑いの絶えない一日になった。若い頃に相当やりこんだであろう素晴らしい投球を見せる方もいて、利用者の違った一面を見ることができた。」

思いっきり楽しんでる風には見えるものの細心の気使いをしながら見守りをする職員の一人ひとりの笑顔は、常に対象者の方々の笑顔として反映する事をさすがしく感じ入った今回のボーリング大会。センターすみだの更なるエネルギーな活動を今後も期待したいところです。  
(佐藤信子)



## ⑥ 国際シンポジウム『社会的経済と地域再生にむけた基盤づくり』参加報告

3月27日、全労済東京都本部にて社会的企業研究会主催の国際シンポジウムが行われました。テーマは「社会的経済と地域再生にむけた基盤づくり」で、第一部は国際協同組合運動の理論的リーダーであるイアン・マクファーソン博士を招いての講演、第二部では4名のパネリストが3つの論点(①社会的経済に求められるものは何か、②ファイナンスシステム、③ひとづくり)について発表しました。

パネリストはふるさと会の代表である水田恵の他、ワーカーズ・コレクティブ・ネットワークジャパン、北海道NPOサポートセンター、近畿労働金庫の代表の方々と、水田からはふるさと会の事業と特質、協同、ファイナンスシステムの現状と課題、求められる人材について話がありました。

地域のニーズに合ったサービスを提供するのになぜお金が集まらないのでしょうか。地域で集まったお金を地域で使うことが地域再生につながるとパネリストたちは考えています。そこで、横のつながりが重要であるということが彼らの報告での共通点でした。

NPO同士の交流、共済組合とNPOの連携、地域コーディネーターとなって学生が市民事業を体験など、地域に根差していくことが大切です。また、行政ではなく民間や市民がプランニングを行なう方法もあり得ます。地域でさまざまな連携を行なうことは有効的であり、行政・民間・市民が協同で地域振興のために努め社会参加をすることが社会的経済と地域再生にむけた基盤をつくることになると思います。

(川越一恵)



## ⑦ 今月のボランティア募集

### 【敬老室】

敬老室日曜開放の特別行事は、毎月第3日曜日に昼食会&イベントを行っております。今月は、トランプ大会を行いました。前号では『春の遠足』とお知らせしましたが、前日まで雨模様の日が続き、参加者が少なかったため急遽予定を変更し、トランプ大会としました。ゲーム事の好きな利用者の方が多く、10名ほどがババ抜き・七並べ・神経衰弱など、お馴染みのゲームに熱心に興じて、トランプ大会は思いのほか盛り上がりました。

来月の特別行事のイベントはまだ決まっていませんが、決まり次第、参加のお願いも兼ね、メールにてお知らせいたします。また、コメ、調味料、保存食品などは随時募集しております。お問い合わせは下記まで、お気軽にご連絡下さい。

## &lt;連絡先&gt;

ボランティアサークルふるさとの会（担当：馬場・町田）  
TEL 03-3801-0377 E-mail: [keirusitu@gmail.com](mailto:keirusitu@gmail.com)  
ふるさとの会HP <http://www.d5.dion.ne.jp/~hurusato/>

## 【センターすみだ】

地域生活支援センター『すみだ』では5月25日(日)、センター利用者の方々に参加していただき、健康促進を目的として「ヨガ教室」を予定しております。会場はセンター『すみだ』、時間は14:00～16:30、定員15名で参加費は300円です。内容は初心者コースで、専門の講師の先生をお呼びして行います。日頃、運動不足がちと思われる利用者の方々にはこうした軽い運動がおすすめです。これを機に興味をもたれてヨガの運動が日常生活の一部になれば、おおいに健康促進に役立つことでしょう。

## &lt;連絡先&gt;

地域生活支援センター『すみだ』（担当：館野）  
TEL 03-5819-3254



今月の特別行事とランプ大会の様子



ゲームを通じて、話も弾みます

発行元：特定非営利活動法人 自立支援センターふるさとの会  
〒111-0031 東京都台東区千束4-39-6  
TEL: 03-3876-8150 FAX: 03-3876-7950  
E-mail : [hurusato@d5.dion.ne.jp](mailto:hurusato@d5.dion.ne.jp)  
HP : <http://www.d5.dion.ne.jp/~hurusato/>